

ユニバーサルマナーアカデミックプログラムの提供に添えて

一般社団法人日本ユニバーサルマナー協会
講師 岸田ひろ実



ユニバーサルマナーアカデミックプログラムの講師を務める、岸田ひろ実と申します。

私は現在 46 歳で、子どもが二人います。私の車椅子利用歴は今年で 7 年目になりました。
今日に至るまで、私の人生には大きな 3 つの転機がありました。
それらの転機はすべて、私にとって「絶望」から始まったものでした。

まず最初の転機は、重度の知的障害のある長男の出産です。
医師から知的障害があると宣告された時は、とても悲しく落ち込み、途方に暮れました。
今では考えられませんが、腕に抱いた長男を見ながら、この子を育てていく自信が無いとさえ思いました。
子育ては想像以上に大変でしたが、その困難の何倍ものことを息子から教わりました。
「他の人と違っていいんだ」ということを息子が教えてくれたから、人生が楽しく思えました。

2 つ目の転機は、10 年前に夫が心臓の病気で急死したことです。
私は夫が亡くなる前に、「ありがとう」「ごめんね」の気持ちすら伝えることができませんでした。
命に限りがあること、そして、時間は有限だということを思い知りました。
だからこそ、伝えたいことがあるなら、素直に、その場で伝えないといけないことを学びました。
この日から私は、専業主婦を辞め、自分の力で歩いていくことを決めました。

3 つ目の転機は、私自身が大動脈解離という病気で倒れ、後遺症から歩けなくなってしまったことです。
目覚めたら、下半身の神経はすべて途切れ、一生自分の力で歩くことはできなくなっていました。
その日から今までの生活は一変し、生きる意味すら見失っていました。死を考えたこともあります。
しかし、歩けなくなったという絶望の中で、本当に大切なものを見ることができました。
車いすに乗る高さ 100cm の私の視点、知的障害のある長男の子育ての経験があったからこそ、
伝えられることがたくさんありました。障害は、時にプラスに変えることができます。

今、私には子ども達に伝えたいことがあります。それは、「ユニバーサルマナー」という考え方です。

障がい者に限らず、たくさんの多様な方が暮らす社会です。
自分とは違う相手のことがよくわからない人もいるでしょう。
また、自分はみんなと違うかもしれないと思うと、不安な気持ちになる人もいるでしょう。
誰もが安心して、楽しく暮らせるための考え方が、私のお伝えしたい「ユニバーサルマナー」なのです。

高齢者や障害者へ声をかけられないのは、なぜなのか。それは単純に、わからないから、です。
困っている誰かの気持ちを知るだけで、踏み出せる第一歩があります。
このプログラムで、心と頭をたくさん動かして考える、そんな時間を一緒に過ごしたいと願っています。

長男と 6 年間という時間を過ごしてくれた小学校のクラスメイトたちから、
「最初は声をかけるのが怖かったけど、もう今は、考えていることがわかるよ」
「みんな苦手なことがあるんだから、みんなで助けあえばいいんだよ」と言われた日、
わたしは嬉しくて涙が止まりませんでした。
多様性を受け入れ、やさしく、のびのびと未来を歩んでいける子どもたちの未来を創りたいと思います。